

令和3年度

事業報告書

特定非営利活動法人キープ・ママ・スマイリング

1 事業の成果

■病児等を育てる家族に対する生活支援事業

①お弁当 de スマイリング事業

21年1月より地域の新たな助け合いの仕組みづくりを構築するために、飲食店と協働して付き添い者に食事を届ける「お弁当 de スマイリング事業」を開始しました。東京では聖路加国際病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、ドナルド・マクドナルド・ハウスせたがや、同ふちゅうの4か所で月1回定期的実施し、今期に届けた弁当総数は770食、この事業に協力していただいた飲食店は16店舗になります。さらに12月には同様の取り組みが佐賀大学医学部附属病院でも始まり、地元の農家から無償で提供された生産物を使って市内の結婚式場のシェフがお弁当（30人分）を調製し、大学生と当団体のスタッフが病院までお弁当を届けるという地域を巻き込んだ活動となっています。

②ミール de スマイリング事業

佐賀大学医学部附属病院には月1回、缶詰およびお菓子類などの提供品を送付しており、今期は300人分を届けました。

③付き添い生活応援パック無償配布事業

緊急コロナ禍支援策として2020年10月より開始した「付き添い生活応援パック無償配布事業」は、5～6月に実施した啓発キャンペーン「Smiling Mons Days」のクラウドファンディングで新たな活動資金（520万円／約1700人分）を獲得したことで、2021年度も順調に配布数を伸ばし、今期は全国の2500家族に応援パックを届けることができました。応援パックを受け取った人の満足度評価の平均は5段階評価の4.5でした。また、チラシの配布・掲示などに協力していただいた医療機関は全国で121か所、応援パックに入れる物品を協賛・提供していただいた企業は40社でした。

④付き添い生活サポートプラス パイロット事業

下半期の9月～22年3月には、（助成金名）の助成を受け、ひとり親家庭を中心に経済的に困窮する付き添い者を対象とした「付き添い生活サポートプラス パイロット事業」を実施し、全国の31家族を支援しました。付き添い生活を送るうえで必要な物資をその都度聞き取り、月2回、病院または自宅に生活物資を届けました。同時に支援対象者とLINEでつながり、必要に応じて交流し、特にひとり親が孤独にならないよう見守り続けました。パイロット事業終了後に、支援対象者（回答数27人）に実施したアンケート調査では、提供した生活物資の満足度（5段階評価4.5）のほか、心身の健康状態についての自己評価も行い、支援前より改善したと回答した人が全体の92.5%（25人）を占めました。また、支援を受けたことにより孤独感が減ったと回答した人は全体の48.1%（13人）おり、心の支援につながっていることもわかりました。このような点からも、この事業を実施する意義を見出しました。

■病児等を育てる家族に関する調査研究、普及啓発、人材育成、政策提言および連携促進にかかわる事業

①聖路加国際大学共同調査「入院中の子どもの家族の生活と支援に関する実態調査」の中間報告

2019～20年にかけて聖路加国際大学と共同で調査をすすめてきた「入院中の子どもの家族の生活と支援に関する実態調査」の定量調査の結果がまとまり、10月にプレスリリース等で公表しました。この調査はメディアにも注目され、共同通信社が全国の地方紙に配信した記事は、愛媛新聞、神戸新聞をはじめ11社の1面に取り上げられました。また、定量調査の結果は、聖路加国際大学小児看護学小林京子先生らによって日本小児看護学会第31回学術集会にて発表され、同学会の「ベストいいね！賞（口演）」を受賞しました。

②「付き添いママ&パパ応援 Smiling Moms Days キャンペーン」

付き添い家族の現状を知り、その理解を深めることを目的に5月9日（母の日）から6月20日（父の日）まで啓発キャンペーン「Smiling Moms Days～毎日がハハツの日。」を展開しました。キャンペーン中には医療者向けのオンラインシンポジウムをはじめ、付き添いママに向けたオンラインセミナーなどを複数実施し、クラウドファンディングにも挑戦しました。クラウドファンディングでは、医療界だけでなく経済界、文学界、芸能界、スポーツ界などさまざまな業界から43名の著名人のみなさんが応援メッセージを寄せてくださいました。

③オンラインシンポジウム「コロナ禍における小児病棟と付き添い家族の現状と課題」開催

啓発キャンペーンのイベントとして6月13日に、オンラインシンポジウム「コロナ禍における小児病棟と付き添い家族の現状と課題～家族の声から今、私たちにできることを考える～」を開催しました。登壇者には、小林京子さん（聖路加国際大学大学院小児看護学教授）、松尾宗明さん（佐賀大学医学部小児科学教授）、佐々木智子さん（札幌北楡病院看護科長）、柳町昌克さん・横須賀とも子さん（神奈川県立こども医療センター血液・腫瘍科）、井上絵未さん（済生会横浜市東部病院こどもセンターCLS/前・チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会会長）、山崎まどかさん（前・厚生労働省健康局がん・疾病対策課相談支援専門官）をお迎えしました。シンポジウムでは、各ステークホルダーからコロナ禍における小児病棟、病気の子どもたち、付き添い家族の状況や、各施設における取り組みが報告された後、当事者から求められている支援、私たちに今できる支援について、それぞれの立場から話し合われました。当日の参加者は、医療関係者をはじめ、当事者（付き添い家族）、医療系学生、行政関係者、報道関係者と多岐にわたり、全国から約150名の参加がありました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 16,738 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
(1) 病児等を育てる家族に対する生活支援事業	①小児病棟、ファミリーハウスで付き添い入院中の家族へのお弁当提供 ②小児病棟、ファミリーハウスで付き添い入院中の家族への食品提供 ③小児病棟で長期付き添い中のご家族へ「付き添い生活応援バック」を無償提供 ④子どもが入院中のひとり親家庭・生活困窮家庭への「付き添い生活サポートプラス事業」	①令和3年4月～毎月1回 ②令和3年4月～毎月1回 ③令和3年4月～毎週2回 ④令和3年9月～毎月2回	①マクドナルドハウス せたがや/ふちゅう、聖路加国際病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、佐賀大学医学部附属病院 ②佐賀大学医学部附属病院 ③小児病棟、ファミリーハウス ④要望のあったご家庭	①3名 ②2名 ③6名 ④4名	①1回20～40名 ②1回25名 ③全国病院520施設 ④毎週30名	①770名 ②300名 ③1257家族 ④31名	16,112
(2) 病児等を育てる家族に関する調査研究、普及啓発、人材育成、政策提言および連携促進にかかわる事業	①「入院中の子どもの家族の生活と支援に関する実態調査」の結果報告 ②「付き添いママ&パパ応援 Smiling Moms Days キャンペーン」実施 ③オンラインシンポジウム「コロナ禍における小児病棟と付き添い家族の現状と課題」開催	①令和3年10月 ②令和3年5月8日～6月19日 ③令和3年6月13日	①新聞、オンライン、プレスリリース ②オンライン ③オンライン	①2名 ②4名 ③4名	①付き添いご家族、医療関係者、マスコミ等 ②啓発のため全国民 ③付き添いご家族、医療関係者、マスコミ等	①－ ②－ ③150名	626
(3) その他、この法人の目的を達するために必要な事業	令和3年度は活動実績なし						0